

休日

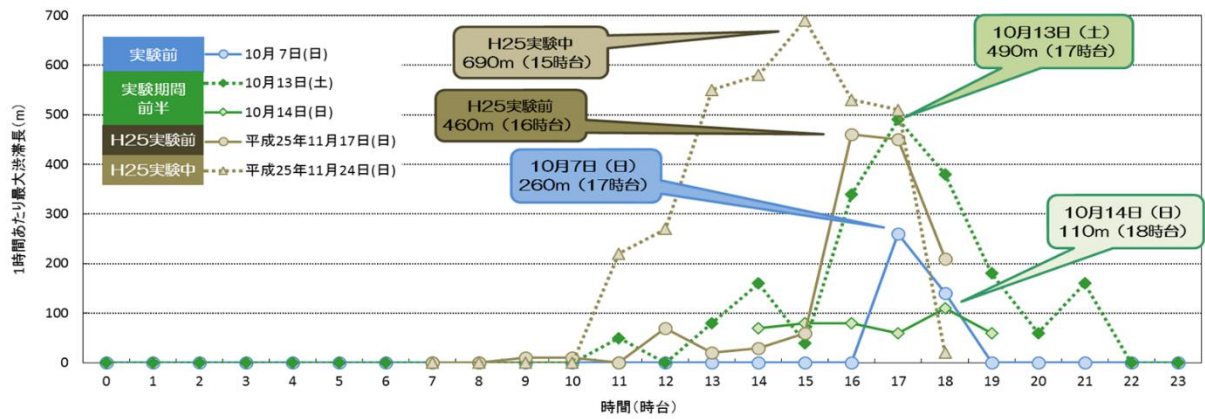
■最大渋滞長（難波交差点を起点）

	今回社会実験 (H30)	
	最大渋滞長	実験前との差
実験前	260m	
実験前半	490m	+230m
実験後半	360m	+100m

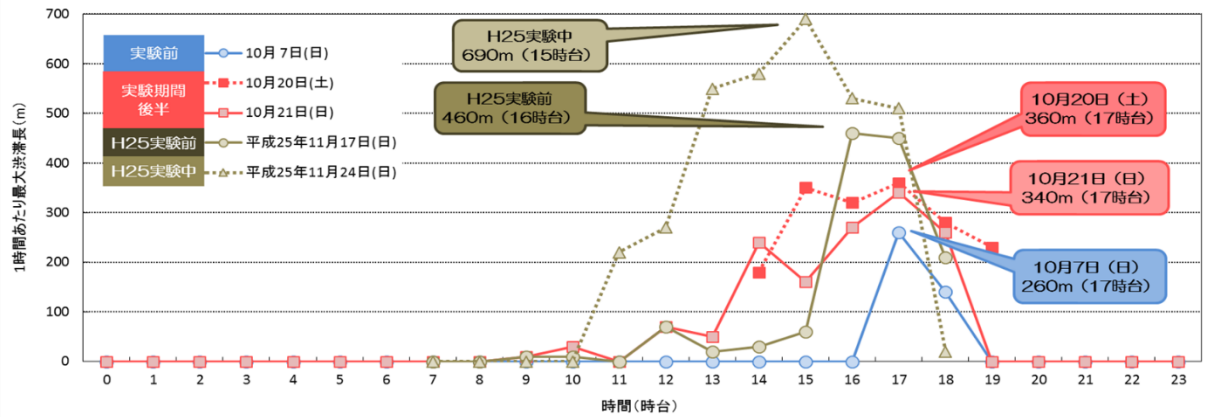
※平成 25 年度の社会実験では、休日、道頓堀橋南詰交差点付近の閉鎖した東側側道を活用し、にぎわい創出に向けた社会実験を実施。その際、停車スペース利用者への安全対策として、道頓堀橋南詰交差点付近において、本線 1 車線を閉鎖し、3 車線運用したことにより、実験中のデータが実験前に比べ上回った。

	H25 社会実験	
	最大渋滞長	実験前との差
実験前	460m	
実験中	690m	+230m

【実験前半：H30. 10. 9～10. 15】



【実験後半：H30. 10. 16～10. 22】



- ※調査日・実験前 休日：平成 30 年 10 月 7 日 (日) [24 時間]
- ・実験前半 休日：平成 30 年 10 月 13 日 (土) [24 時間]、10 月 14 日 (日) [6 時間 (14 時～20 時)]
 - ・実験後半 休日：平成 30 年 10 月 21 日 (日) [24 時間]、10 月 20 日 (土) [6 時間 (14 時～20 時)]
 - ・H 2 5 実験前 休日：平成 25 年 11 月 17 日 (日) [12 時間 (7 時～19 時)]
 - ・H 2 5 実験中 休日：平成 25 年 11 月 24 日 (日) [12 時間 (7 時～19 時)]

休日

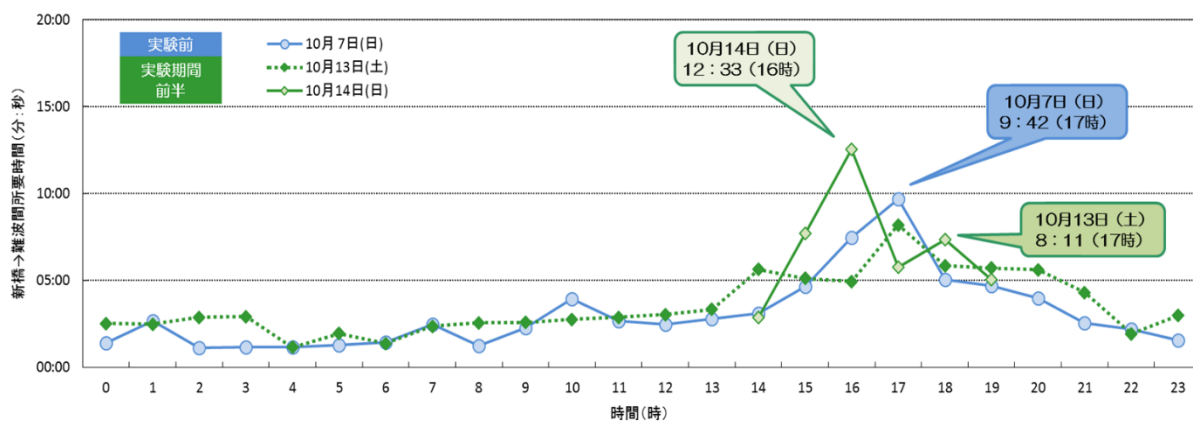
■所要時間

	新橋～難波交差点間		新橋～道頓堀橋北詰交差点間	
	最大所要時間	実験前との差	平均所要時間	実験前との差
実験前	9 分 42 秒		2 分 12 秒	
実験前半	12 分 33 秒	+2 分 51 秒	2 分 07 秒	-5 秒
実験後半	14 分 57 秒	+5 分 15 秒	1 分 59 秒	-13 秒

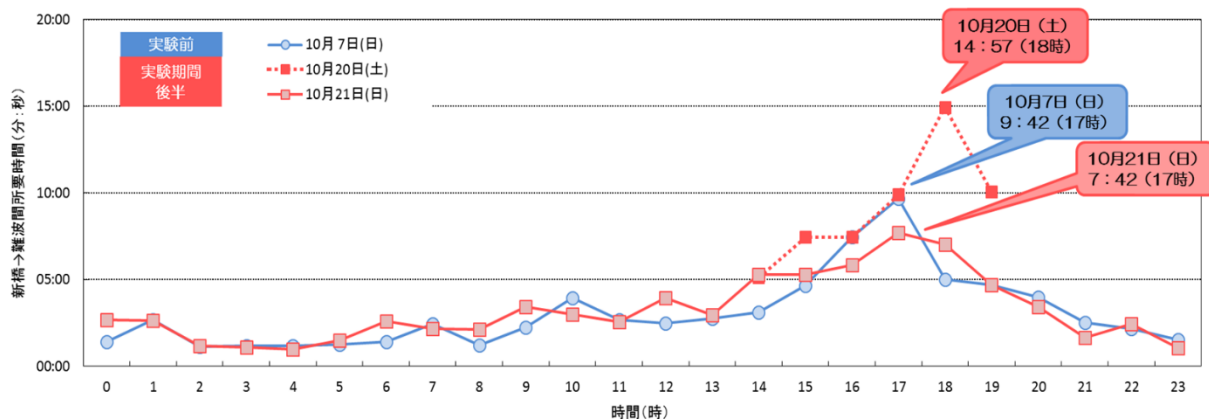
※平均所要時間：7～18 時台の所要時間の平均値

※新橋から難波交差点までの最大所要時間は、平日及び休日ともに、実験前に比べ実験前半、後半のいずれも上回ったものの、一方、新橋から道頓堀橋北詰間の平均所要時間（7～19 時の 12 時間）は、実験前に比べ実験前半、後半ともに同程度であった。一つの要因として、道頓堀橋南詰交差点を越えてから第2レーン（左折）から第3レーン（直進）へ移動した直進車両が約5割あったことから、社会実験に伴う規制変更の不慣れにより伸びたものと考えられる。

【実験前半：H30. 10. 9～10. 15】



【実験後半：H30. 10. 16～10. 22】



※調査日

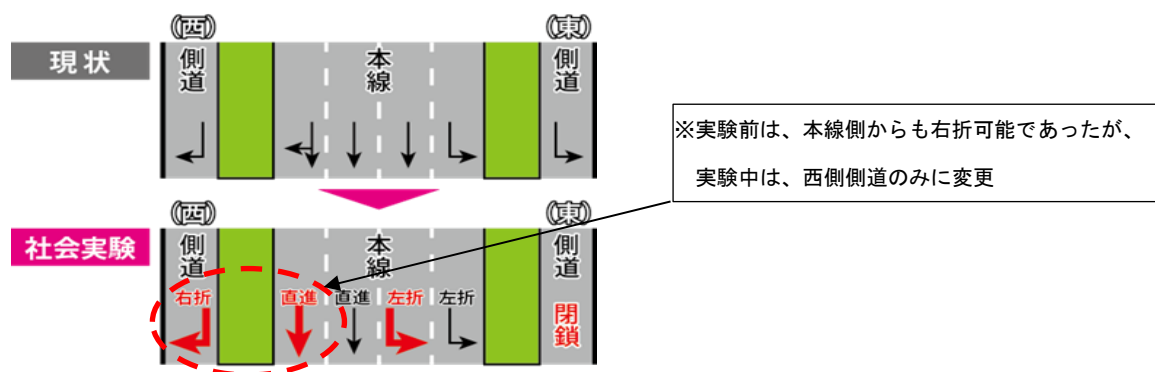
- ・実験前 休日：平成30年10月7日(日) [24時間]
- ・実験前半 休日：平成30年10月13日(土) [24時間]、10月14日(日) [6時間(14時～20時)]
- ・実験後半 休日：平成30年10月21日(日) [24時間]、10月20日(土) [6時間(14時～20時)]

<難波交差点北側での右折状況>

- ・ 最大滞留長、最大渋滞長は、平日及び休日ともに、実験前に比べ実験前半、後半のいずれも上回った。
- ・ 新橋から難波交差点までの最大所要時間は、平日及び休日ともに、実験前に比べ実験前半、後半のいずれもほぼ上回ったものの、一方、新橋から道頓堀橋北詰間の平均所要時間（7～19時の12時間）は、実験前に比べ実験前半、後半ともに同程度であった。
- ・ 平日及び休日の最大値は、実験前に比べ実験前半、後半ともにほぼ上回っているが、一つの要因として、社会実験に伴い右折レーンを西側側道のみ規制変更したため、道頓堀橋南詰交差点で西側側道に流入しようとする右折車が進行阻害した影響により伸びたと考えられる。

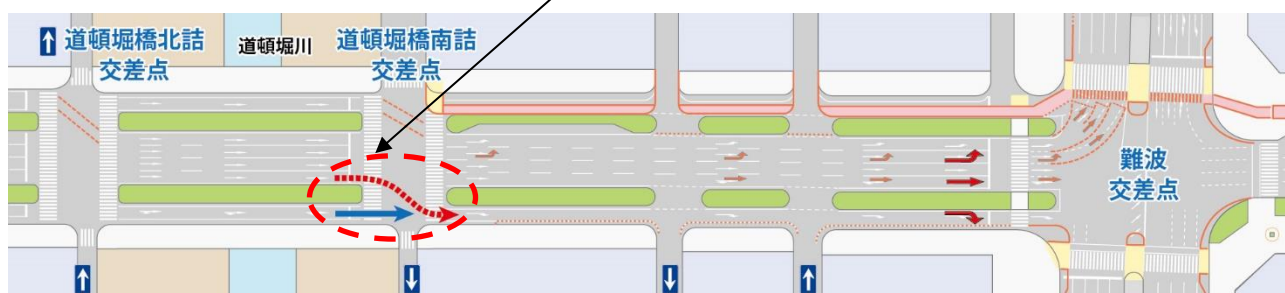
※ 平成25年度の社会実験（規制変更を行わず側道を閉鎖した社会実験）では、実験前と実験中の最大滞留長、最大渋滞長等が同程度であった。

■規制変更



■西側側道に流入しようとする右折車の状況

※道頓堀橋南詰交差点で西側側道に流入しようとする右折車が進行阻害



平日

■最大滞留長（難波交差点を起点）

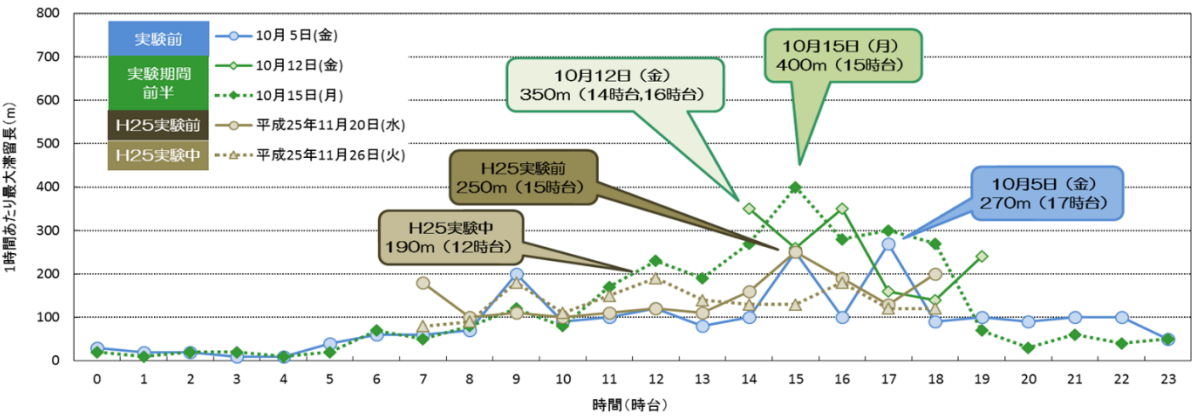
	今回社会実験 (H30)	
	最大滞留長	実験前との差
実験前	270m	
実験前半	400m	+130m
実験後半	380m	+110m

※平成 25 年度の社会実験では、直進・右折車両の交通影響を検証することを主眼に実施しており、本線の直進・

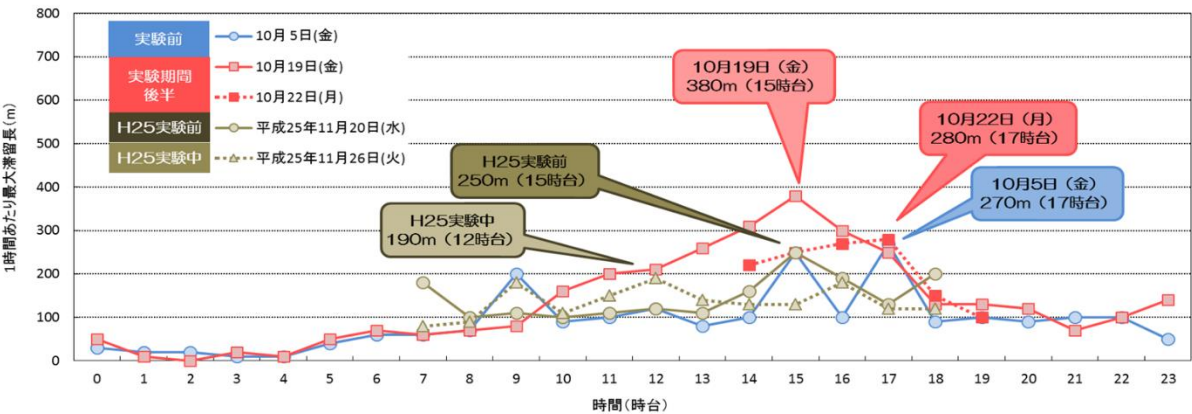
右折レーンは、規制変更を行わず側道を閉鎖した社会実験であり、本線における滞留長を計測した結果、実験前と実験中は同程度であった。

	H25 社会実験	
	最大滞留長	実験前との差
実験前	250m	
実験中	190m	-60m

【実験前半：H30. 10. 9～10. 15】



【実験後半：H30. 10. 16～10. 22】



※調査日

- ・ 実験前 平日：平成 30 年 10 月 5 日(金) [24 時間]
- ・ 実験前半 平日：平成 30 年 10 月 15 日(月) [24 時間]、10 月 12 日(金) [6 時間(14 時～20 時)]
- ・ 実験後半 平日：平成 30 年 10 月 19 日(金) [24 時間]、10 月 22 日(月) [6 時間(14 時～20 時)]
- ・ H 2 5 実験前 平日：平成 25 年 11 月 20 日(水) [12 時間(7 時～19 時)]
- ・ H 2 5 実験中 平日：平成 25 年 11 月 26 日(火) [12 時間(7 時～19 時)]